事例No.	3682
公表年度	R7
団体の属性	一般市
団体名	千葉県館山市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・公共施設活用

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

道の駅を拠点施設とした「食のまちづくり」による地域活性化

出典

地方自治研究機構　先進事例調査研究（令和7年度）

道の駅を拠点施設とした「食のまちづくり」による地域活性化

取組のあらまし

取 組 団 体　千葉県館山市

取 組 内 容　道の駅において、地域農産物や加工品、ジビエの販売、食・農作業体験などの多彩なサービスを提供し、「食のまちづくり」を推進。農業の振興や交流人口・関係人口増加による地域活性化を図る取組。

予　算　等　19,690 千円（令和６年度実績値）※指定管理料

1　千葉県館山市の概要

人　　口	43,554 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職 員 数	282 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総 面 積	110.05 ㎢	令和７年１０月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 １　千葉県館山市の位置図

出所：館山市ホームページ

2　取組の背景・目的

(1) 産業振興の柱としての「食のまちづくり」

館山市は、千葉県房総半島の最南端に位置し、温暖で過ごしやすい気候と豊かな自然環境が特徴である。黒潮の影響を受け、新鮮な魚介類や地元産の農産物（かんべレタス、房州びわ、いちご、なし、パッションフルーツなどの南国フルーツ）が豊富で、また畜産物やジビエの提供環境も整備が進んでいる。さらに、花卉栽培も盛んな地域として知られている。東京湾アクアラインや館山自動車道の整備によって、都心部からのアクセスも飛躍的に向上している。

一方、農業・漁業の担い手の高齢化や減少が進み、耕作放棄地の増加などによる農漁村の衰退が進んでいた。観光業については、気候条件や立地に恵まれながらも、全国的な知名度は低く、他地域との競争が激化する中で、観光入込客数も伸び悩む等の地域課題があった。

こうした状況のなかで、館山市は平成 27 年に「たてやま食のまちづくり計画」を策定し、多彩な農水産物等の地域資源と商工観光事業を結びつけることが、地域の魅力向上と発展に繋がるものとし、「食のまちづくり」を産業振興の柱に位置づけた。

(2) 拠点施設としての「道の駅グリーンファーム館山」の誕生

「食のまちづくり」の推進にはいくつかの課題があった。まず、情報発信体制が脆弱であるため、積極的に地域の魅力を広めるための体制強化が求められた。また、生産者のモチベーションを向上させることや、生産力を増強させるための支援が不可欠であった。そして、計画的な生産・出荷体制が整備されておらず、地域内で生産された農産物を効率的に流通させる仕組みが不足していた。

これらの課題解決に向けて、地域農産物に関する人、モノ、情報を集め、連携させるための拠点施設が求められた。

こうして、「食のまちづくり」を中心に地域活性化を促進し、館山市の食の魅力を強力に発信する役割を果たすための施設として、「道の駅グリーンファーム館山」（以下「グリーンファーム館山」という。）が、令和６年２月 16 日にオープンした。「株式会社ロードサイドステーション館山」が指定管理者として、施設の整備から維持管理・運営を担っている。

図表 ２　グリーンファーム館山の施設概要

【敷地面積】 22,905 ㎡（臨時駐車場等含む場合 27,867 ㎡）
【建築面積】 937.01 ㎡（延床面積 835.84 ㎡）
【駐車場】 小型・普通車 119 台 大型車 9 台
身障者用 3 台 EV 充電 1 台
【トイレ】 男：(小) 6 器 (大) 3 器
女：10 器
多目的：1 箇所

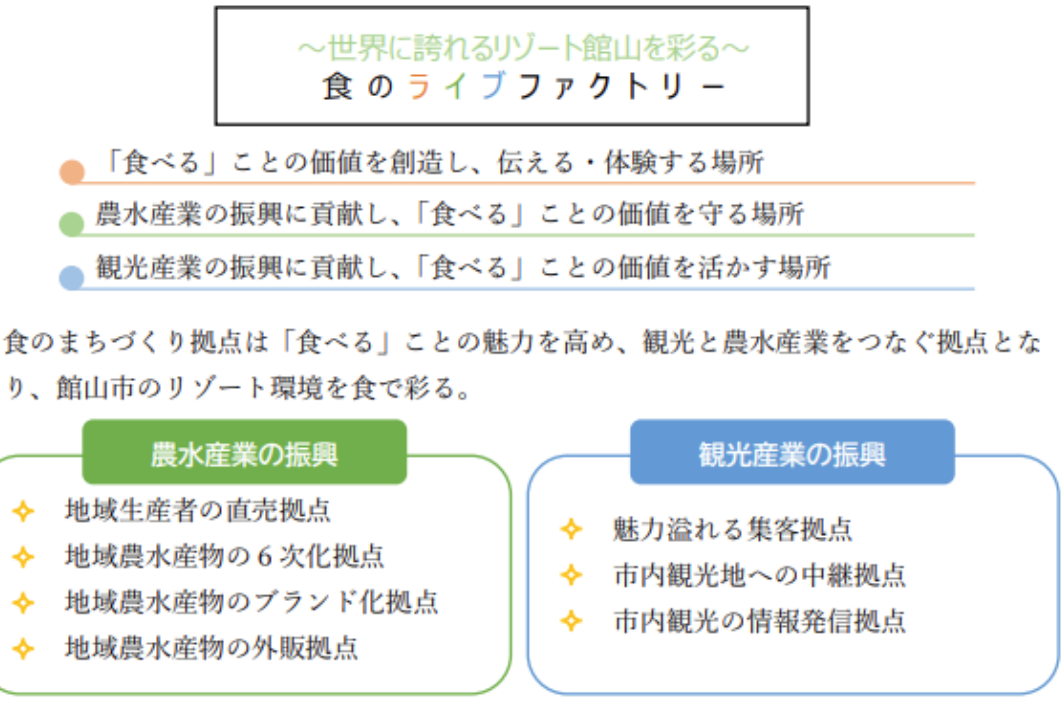
出所：館山市「食のまちづくり拠点施設（道の駅グリーン ファーム館山）が地域にもたらす効果」

3　取組内容

(1) 事業コンセプト

グリーンファーム館山の計画は、「食のまちづくり」における拠点施設の位置づけからスタートしている。そして、館山市は計画段階で、同施設の事業コンセプトを「食のライブファクトリー」と打ち出した。この事業コンセプトには、房総半島南部の多彩な地域資源を連動し、その魅力を生み出し、変化・成長し伝播する場面（生産、加工、流通販売、体験など）をライブ感あふれるコンテンツとして創り伝え、リゾートに彩を添える場の想いが込められている。こうした事業コンセプトに基づき、オープン以後も地域の観光と農水産業をつなぎ合わせ、農業や食の体験ができる体験型の道の駅として、多くの方に愛される「食と体験のテーマパーク」を目指した取組を展開している。

図表　3　事業コンセプト「食のライブファクトリー」



出所：館山市「館山市「食のまちづくり拠点施設」整備事業 募集要項（令和３年３月 19 日改正版）」

(2) 具体的な取組内容

グリーンファーム館山は、マーケット、レストラン、体験プログラムなどの多彩なサービスを提供している。

マーケットでは、地元の新鮮な農産物や加工品、ジビエ、地元事業者とのコラボスイーツやお土産品、工芸品などが販売され、地域の特産品を楽しむことができる。

レストランでは、ジビエや地元野菜を使った料理を提供するレストランや、地元の野菜を取り入れた食材付き BBQ プラン、自分で食材を持ち込む「もちこみ BBQ プラン」など、さまざまな食の楽しみ方を提供している。また、地元の牧場の新鮮な牛乳を使ったソフトクリームやジビエハンバーガーといった軽食も販売されており、多様な食文化を体験できる。

体験プログラムでは、施設内の農園で、季節ごとの野菜や花の収穫体験、農作業体験を提供している。緑豊かな自然の中で農業や食の魅力を直接感じることができ、来訪者が地域の農業とのつながりを深める場となっている。また、調理機能を備えた多目的室や BBQ エリアにて、調理体験を提供し、来場者は農業や食に関する実践的な学びを得ることができる。

図表 ４　グリーンファーム館山が提供する主なサービス例

多彩な地域産品が並ぶマーケット

名物のジビエハンバーガー

調理機能を備えた多目的室

敷地内に整備された農園

出所：館山市「食のまちづくり拠点施設（道の駅グリーンファーム館山）が地域にもたらす効果」

４　成果・課題

(1) 本取組から期待される成果

本取組は、地域の食の魅力をさまざまな形で発信する拠点施設として機能している。本取組から期待される成果は下記のア～ウのとおりである。

ア 農業を中心とした第一次産業の振興

農産物活用促進によって、農業を中心とした第一次産業の担い手育成、規格外品活用の促進へと繋がり、農業を中心とした第一次産業の振興への寄与が期待される。

イ 関係人口・交流人口の増加

情報発信の強化によって、地域産品の活用促進やブランド力向上はもとより、観光客の誘客促進など、関係人口・交流人口増加への寄与が期待される。

ウ 他産業活性化への波及効果

農業や観光産業の活性化（上記アおよびイの成果）によって、ヒト・モノ・カネ等の地域内流通が促進されることによる他産業活性化への波及効果が期待される。

（2）課題と今後の展望

館山市の担当課によると、グリーンファーム館山の運営上の課題として、農業や食の魅力を伝えるコンテンツのさらなる拡充や生産者との連携強化、が挙げられる。

グリーンファーム館山では、農業や食の魅力を伝えるさまざまなコンテンツを取り揃えている。一方で、マーケットにおける地元農産物の販売スペースには限りもあり、来館者からは、「もっと、野菜の品揃えを増やしてほしい」との声が寄せられることがある。また、自社農園で提供する農作業体験のメニューには限りもある。そこで、グリーンファーム館山は、農産物の売り場面積の拡大や自社農園の整備を進め、農作業体験メニューの拡充を図っているところである。

また、農業や食の魅力を伝えるコンテンツの磨き上げには、地元農家とグリーンファーム館山のスタッフとの連携体制の強化も不可欠である。そこで、グリーンファーム館山は、定期的に地元農家に足を運ぶことで、顔の見える関係を構築し、関係の緊密化を図っている。

館山市の担当課は、「地元農家と良好な関係を築き、魅力的な拠点作りを進めたい。その結果として、農業をはじめとした一次産業の振興に繋げたい」としている。

関連・参考資料

道の駅グリーンファーム館山ホームページ
https://greenfarm-tateyama.com/
館山市「食のまちづくり拠点施設（道の駅グリーンファーム館山）が地域にもたらす効果」
https://www.hido.or.jp/wp-content/uploads/2024/04/2404chiiki-tateyama_city.pdf?utm_source=chatgpt.com
館山市「館山市「食のまちづくり拠点施設」整備事業 募集要項（令和３年３月19日改正版）」
https://www.city.tateyama.chiba.jp/files/300358641.pdf